**鹽竈神社の神事と神輿**

ここに展示されている２基の神輿は、鹽竈神社と志波彦神社の祭りで使われます。

鹽竈神社の黒漆塗りの神輿は280年以上前に造られました。この神輿の重量は約1トンにもなりますが、その重さにも関わらず、祭りの際にはわずか16人の男たちに担がれて市街へと続く202段の石段を下ります。50年ほど前に造られた比較的新しい志波彦神社の神輿は鮮やかな朱色です。

これらの神輿は両神社の最も盛大な三つの祭りに登場します。3月の「帆手祭(ほてまつり) 」と4月の「花まつり」では、鹽竈神社の神輿が市中を巡行します。7月の「みなと祭」では、両神社の神輿が龍や鳳凰を模した華やかな船に乗せられ、松島湾岸沿いを航行します。祭りの期間以外には、神輿はここ、鹽竈神社博物館に展示されています。

鹽竈神社博物館では、江戸時代（1603-1867）から明治時代（1868-1912）にかけての書物や版画などを閲覧し、これらの祭りの歴史についての理解を深めることができます。資料の中には当時の神輿行列や祭りの様子が描かれているものもあります。